

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 1 月 6 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3495000048		
法人名	有限会社 ヒサオカ		
事業所名	グループホーム能美いこいの里		
所在地	広島県江田島市大柿町小古江684-3 (電話) (0823)57-0040		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3495000048-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年12月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様1人ひとりがその人らしい生活、楽しい人生を過ごせるよう、ご自宅で過ごされていた時と同じように施設でも過ごせるよう出来る限り自由に過ごして頂いております。個別レクではパズルや塗り絵等、本人様が行いたい事をして頂き難しい所を職員と一緒にコミュニケーションを図っています。集団レクでは手作りおやつでお菓子や料理を作成したり、工作・体操を行ったりしています。共同生活上おこる喜怒哀楽を制限せず、施設職員が協力したり利用者様同士が協力して、やりたい事や悩み等解決できるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

施設理念「生きがい、尊厳の重視」を基に、職員理念3ヶ条を職員が意識し支援している。利用者一人ひとりの希望、意向に寄り添い、できる限りの支援を行おうと様々なアイデアを持ち寄り工夫している。例えば、重度化した利用者を1度自宅へ連れて帰りたいという家族の要望に対して協力した事例もある。また市が開催する研修や地域の行事等にも積極的に参加し、顔の見える関係を築く努力をしており、地域とも良好な関係を築いている。隣接している医療機関が協力医であり、夜間や緊急時の際には早急に協力が得られ、医療との連携を密に図りながら適切に健康管理がなされていることで安心した生活を送ることが出来るよう支援している。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	施設理念は夕方申し送り時に唱和し意味と意義を共有している。又、施設理念とは別に職員全員で作成した3カ条を朝の申し送り時に唱和しケアの方針として実践に繋げていけるよう努めている。	コロナ禍の為、施設理念と職員理念の唱和は控えているが、毎月20日のミーティング時に共有するように努力している。また、理念に基づき個人目標を設定し、年2回の評価と面談を行っている。職員それぞれに得意なことや自分らしさを活かした取り組みを行っていく職場風土が形成されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の方とは事業所の畑を通じて意見交換や交流を図っている。その他、地域の催し物の参加やボランティアの方との交流も定期的に行うようにしている。(コロナウィルス流行の為、様子見ながら行事参加中止)	コロナ禍の為、地域の行事(とんどや秋祭り等)が中止となり、小・中学校との交流も出来ていない。毎月の法話も控えている。近隣の散歩も控えている為、地域の方との交流も出来ていない。このような状況ではあるが、休校中に高校生がボランティアで来てくれたこともあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、高齢福祉課や地域包括支援センターの職員と連携し、御家族や地域の方に向けて認知症高齢者の理解と支援方法を伝え、意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様の状態、利用状況、行事等の報告を行っている。又、現在取り組んでいるサービス内容や困難事例等を説明、参加メンバーから頂いた意見を参考に実践、報告を行っている。	会議には、自治会代表や民生委員、住職、市議会議員、地域包括支援センター、家族代表が参加している。以前は利用者代表も参加していたが、現在は感染症対策により控えている。会議も中止を継続し書面での報告を行っている。今年度10月、12月は実施することができている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度の内容や、事業所が抱えている問題等の相談以外でも、市が推奨する取り組みや職員のスキルアップ研修等に参加し関係を築いている。	運営推進会議において地域包括支援センターとの意見交換や情報共有を行い顔なじみとなっている。市の開催する研修には積極的に参加し、他施設や市職員との関係構築に努力している。最近では、オンラインでの研修にも参加し、職員間で共有できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については日中のみ開放（ただし、自分で自動ドア解除される方がいるので手動している）転倒転落の危険がある階段のみ常時施錠、エレベーターは用ある時のみ開放。職員に対する身体拘束禁止の周知として全体ミーティング等で内部研修を行い、理解した上で利用者様のケアを行うようにしている。	転倒リスクを考慮した対策を色々と考え努力している。職員は、マニュアルや指針を理解した上で、個々の状態を見極め、必要な補助具の選定を行い、安心して生活できるように検討している。	身体拘束防止適正化委員会の発足・開催により、利用者が安心・安全に生活できるように取り組むことや、記録の充実を図れるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体ミーティングでマニュアルに沿った虐待防止の内部研修を行っている。職員一人ひとりが意識してケアを行い、職員同士が相互に注意しあえる関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や計画作成担当者が社会福祉協議会の担当者と連携し対応するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書と重要事項説明書の説明を行い利用者様、御家族の不安や疑問に対しても納得して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の要望には、訴えがあった時にその都度対応している。御家族様からはリモート面会時や、電話連絡により要望を頂いている。運営推進会議を通じ外部へ発表すると共に添えるよう努めている。	家族からの面会の要望に対して、窓越しでの面会やリモート面会を行うなど、気持ちに寄り添い努力している。美味しいものを食べてもらいたいという要望に対しては、花見や敬老会等の行事の際、市内の仕出し弁当を頼んだり、誕生日にケーキを購入することもある。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は職員の提案や意見に耳を傾けるように努め、ミーティングでも意見を聴くようにしている。提案等は、職員全員で話し合い、出来る限り反映するようにしている。	管理者は、毎月のミーティング時以外にも職員に声をかけ意見を聴くように努力している。仕事が得意な職員からの材料の購入希望や、浴室の除湿器購入など反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は仕事の役割を持っている。担当する利用者様のケアプラン原案作成等に、関わり意見や提案が反省される事で、意欲的に仕事に取り組む事が出来ている。代表者は自己評価と実績を考慮し、給与等で反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者と管理者は、職員一人ひとりの経験や力量、向上心を把握しその職員にあった研修に参加できるように努めている。全体ミーティングでは、様々な福祉医療の勉強会を行い、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設や医療機関のスタッフと交流し、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋がるように努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接にて、本人や御家族様に聞き取り調査を行い、不安な事や困っている事等、要望を把握した上でサービス計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>事前契約時と契約時に御家族様の要望を聞き取り、不安を取り除くように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用者様の現在の状態を把握した上で、要望や必要なサービスがどこまで行えているかを説明している。場合によっては他のサービスや医療機関の利用が必要になる事も説明し、理解して頂いている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者様に対しては、人生の先輩として敬意を表した上で、馴染の関係になれるように接し、家族のような雰囲気の中で過ごして頂けるよう職員一人ひとりが意識して関わりをもつようしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>施設は共同生活の場であり職員は家族の一員と言う事を念頭に、好きな活動、できる家事は一緒に行いできる事、できない事を見極め、利用者様が困った時等はさりげなくフォローする関係を構築している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者の多くが、島の住民で馴染の人や場所が多い。本人の希望により、御家族や職員が付き添い対応し、馴染の場所との関係が切れないよう配慮した支援行っている。</p>	<p>訪問理美容もあるが、利用前からの行きつけの美容院へ家族の協力を得て行く利用者や、利用前から行っていたリハビリの継続を希望された方には職員が対応した例があり、自宅にも付き添いを行い帰宅する等、馴染みの関係が継続できるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が関わりを持てるように、レクリエーション活動等行っている。体操や工作レク等を通し、仲の良い利用者様同士が互いに支え合う場面も、見られるようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅に戻られた場合でも、担当のケアマネージャーと連携を取り、必要に応じて情報提供する等の協力をしている。退所が決まった場合でも、希望された場合には、別の施設や医療機関と一緒に探す協力をしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の利用者との関わりの中から、思いや希望、困っている事を把握し支援行っている。意思を伝えるににくい利用者様でも、御家族からの情報や日々の過ごし方、表情を伺い、その方に必要で安心して過ごせるように支援行っている。	生花の師範を持つ利用者の「花を買いに行きたい」と言う希望に対して、花屋まで一緒に買いに行き施設で生けて頂いた。その後も毎月花を購入し継続している。意思を伝えることが困難な方に対しては、日々の関わりの中で表情等から汲み取り、家族へ意見を伺うなど支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接では、本人御家族からこれまでの生活歴や生活環境を伺い、担当ケアマネージャーや医療機関スタッフ等からも、在宅時のサービス利用状況や、診察状況等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面接で得た情報を周知した上で、環境の変化には十分注意し観察行う。日中、夜間の状態記録し職員全員で、共有し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、御家族の要望や意見、その他医療機関等の関係者から得た情報を分析し、計画作成担当者と担当職員で話し合いを行い、サービス計画作成及び評価、見直しを行っている。</p>	<p>毎月のミーティング時に意見を出し合い共有するようにしている。また、居室担当が毎月モニタリングや記録をもとに、計画作成者と居室担当職員で話し合い、サービス計画作成や評価を行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎月24時間、タイムスケジュール形式で経過記録残している。特変時は、日勤日誌や夜勤日誌にも転記し、職員全員で情報の共有と状態の把握に努め、サービス計画作成時や、モニタリングを行う際に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとり状況の変化に応じて、柔軟な対応が出来るように努めている。その際は本人、御家族様に相談しニーズや意見を伺うようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>医療機関、ボランティア、馴染の商店等、その方が生活していく上で必要なもの全てを社会資源と捉え、継続して関わる等が出来るよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者様の大半は、隣接した協力医を主治医としているが、希望により馴染の医療機関を継続されている方もおられる。主治医からの専門医受診の勧めには、御家族様と協力体制を取り通院介助を行っている。医療機関には必要に応じ、情報提供を行う等、適切な医療が受けられるように日頃より連携を図っている。</p>	<p>利用者の殆どが隣接の病院が主治医となっている。往診が月2回あり、年2回は受診し血液検査や心電図検査を行っている。夜間や急変時なども対応が可能であり、入院も行える。希望により馴染みの医療機関の希望も可能であり、家族協力を得て対応している。歯科往診も月1~2回ある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化や疾病の悪化が見られた時には、看護職員に報告。必要であれば受診の手続きを取っている。看護職員不在時でも、電話連絡により状態の報告と相談及び指示が受ける事が出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医や看護師、相談員と連携を取り合い、現在の状態や入院期間等を確認している。退院できる見通しが立った時点で、帰所後も不安なく生活が送れるように、職員全員でケア方法の話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療施設同様の対応は、難しい事を契約時に説明している。その上で看取りを希望された場合には、主治医と相談の上、出来る限りの対応を行っている。その際は、主治医から御家族様に現在の状態と今後予測される変化、医療が行える限界等の説明をして頂いている。	利用開始時に家族・利用者への意向確認を行っているが、重度化した際には再度意向確認を行っている。家族の要望で自宅へ1度帰らせたいという希望を聞き実践したケースもある。看取りの対応も柔軟に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に対処する為のマニュアルを作成し、職員全員に周知し全体ミーティングでも看護職員を中心に応急処置法や対処法の勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、年2回避難訓練を行っている。又、協力機関や近隣の方にも災害発生時の連絡網を配布し、協力体制を築いている。	火災訓練を年2回実施している（夜間想定含む）。避難場所は近隣の病院の駐車場となっている。近所へも有事への協力を呼び掛けており周知や理解を得ており協力体制を築いている。	近隣の方の協力を得るために、合同での避難訓練の実施を検討し、多岐にわたる災害に備え、備蓄の検討を期待する。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりを尊重し、人生の先輩として敬意を表し、プライドやプライバシーを損ねない声掛けと対応を心掛けている。声掛けや対応の仕方について職員同士が互いにアドバイスを行い、ミーティングでも定期的にふりかえりと反省行っている。	声掛けの仕方、視線を合わせる、他利用者に聞こえないように耳元で話すなど、プライバシーに配慮している。また、ミーティング時には研修を実施し理解を深め資質の向上に努めている。職員間で気づくことがあれば、その時に互いに注意し合うなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の言葉による意思表示は勿論の事、意思表示が上手く表せない利用者様にも分かりやすい選択肢を用意する等で、自己決定を促しその人らしい生活が送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レク活動等の参加に対し、声掛け行いが無理強いはしないようにしている。利用者様一人ひとりの性格や生活習慣を尊重し、出来るだけ本人様のペースに合わせた支援と個別対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日着る衣服を職員が選ぶのではなく、利用者様本人に出来るだけ選んで頂くように声掛け行っている。毛染めやパーマを通っていた所に行きたいと希望された方には、美容院に行けるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な調理・下ごしらえや味見、盛り付けから食後の後片付けまで、利用者様の個々の能力に応じた事を手伝って頂いている。	業者より毎月決められた献立からメニューの材料が届き事業所で調理をしている。レシピを見ながら調理する際、利用者に味付けや盛り付けを手伝ってもらったり、畑でできたものを調理することもある。また、特別メニューも計画し、月2回は手作りで食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>外注している食材でカロリー計算されているが、塩分や糖分、脂質には気をつけながらも味が損なわれないように心掛けている。一人ひとりの状態に合わせて、普通食、刻み、トロミ、粥等の工夫を行い、食事や水分摂取量は毎日管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、自力で難しい方は介助を行っている。口腔内の疾患がある方には、歯科医に往診での治療をして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表にて管理し、状態把握を行っている。訴えない方でも、声掛けとトイレ誘導を行い、気持ちよく過ごして頂けるように支援している。介助の際でもできるだけ残存機能を活かして頂き、難しい部分は介助を行うようにしている。</p>	<p>職員は、排泄表を活用して把握するようにしている。利用開始時にはオムツだった利用者が、リハビリパンツに変わった事例もある。座ることを意識し、自分でできることはしていただきながら支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>チェック表にて管理し、排泄状況の把握を行っている。出来るだけ自然排便を促す為、適度な運動とバランスの良い食事、水分量の確保を支援している。排便が見られない場合は、看護職員に報告、医師に相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週2回実施。又、1・2階共に午前浴を行っている。利用者様の体調・希望に応じて好みの時間の入浴も実施している。その方の好みに応じた湯温調整を実施し、冬至にはゆず湯を楽しんで頂き、入浴でも季節を感じて頂けるよう工夫している。</p>	<p>週2回午前中に入浴している。日々の体調や希望に応じて午後からも対応している。季節により、ゆず湯などを楽しんでいただけるように工夫している。また車椅子の方で個別浴槽に入ることが困難な方も、職員が研修を受けることで、可能となり入浴を楽しんでいた。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	利用者様それぞれ休まれる時間 が異なっており、訴えに合わせた 就寝介助を行っている。夜間は、 トイレ誘導やパット交換、希望 時の水分補給等を行い巡回と様 子観察にて安心して気持ちよく 休んで頂けるように、支援して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方されている薬の内容や用法効 能が把握できるように一覧して いる。症状の変化については、 経過記録に残し看護職員を通 じて医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	利用者様には、それぞれホーム での役割を持って頂き意欲の向 上に繋がるように支援している。 個別で行うレクリエーションや 趣味等の活動が楽しく続けて いけるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	天気の良い日には職員が付き添 い施設、畑まで散歩し日光浴や 花を見て楽しんで頂いている。 コロナウィルス流行しなければ 近所の海や施設周辺を散歩し 季節を感じて頂き気分転換と なっている。その他ドライブや買 い物支援で外出される事あり、 御家族の協力もあり外出・外泊 される事もある。	天気の良い日には、近隣を散歩 したり海まで歩いて行ったりし ていたが、コロナ禍で控えてい る。現在は施設周辺や畑までの 散歩を行っている。以前では みかんマラソンを沿道で応援し たり、音戸大橋を見に行ったり、 アイスクリームを食べに行くな ど行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	トラブル防止の為、金銭管理は 原則御家族様にお願いしてい る。買い物や通院での支払いは 施設が立て替えている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は施設の物を使用して頂いている。利用者様の中には携帯電話を使用されている方もおられる。届いた手紙は本人に渡している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアは温度・湿度計を見ながら利用者様が過ごしやすい室温・温度調整をし、健康管理に努めている。壁面には季節を感じて頂ける装飾や行事での写真等を飾り室内でも季節を感じて頂ける工夫をし楽しい雰囲気作りに努めている。	リビング・食堂は広い造りとなっており、採光も良く明るい日差しが差し込む空間である。壁面には利用者が作成した作品が飾られ、テレビ前にはソファが配置され寛ぐことができ、ゆったりと穏やかに過ごせる空間作りがなされている。また、リビングには陰圧装置を設置し、感染対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアの一角にソファを設置しておりテレビ観賞される方や談話されたりフロアテーブルでは思い思いに塗り絵やパズル・手紙を書かれたりくつろぎ休息され、それぞれ過ごされている。利用者様は居室とフロアを自由に行き来され、仲の良い利用者同士が居室を訪れ過ごされている事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族には使い慣れた物や思い出のある物を持ち込んで頂くようお願いしている。出来るだけ住み慣れた場所に近い空間を作り、安心して過ごして頂けるよう支援している。	ベッド・カーテン・エアコンは備え付けである。利用開始前に事前に自宅の環境を見に行くことや家族に確認し、自宅に近い環境となるよう工夫している。テレビや鏡台、仏壇を持ち込まれている方もいる。1部屋に陰圧装置を設置し、感染が流行した際も安心して生活できるように対策している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置しており利用者様が安心して過ごせる環境作りを行っている。自立を促す為、過剰な援助は行わず残存機能を活かして出来る事が継続していけるように支援している。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念は夕方申し送り時に唱和し意味と意義を共有している。又、施設理念とは別に職員全員で作成した3カ条を朝の申し送り時に唱和しケアの方針として実践に繋げていけるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の方とは事業所の畑を通じて意見交換や交流を図っている。その他、地域の催し物の参加やボランティアの方との交流も定期的に行うようにしている。(コロナウィルス流行の為、様子見ながら行事参加中止)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、高齢福祉課や地域包括支援センターの職員と連携し、御家族や地域の方に向けて認知症高齢者の理解と支援方法を伝え、意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様の状態、利用状況、行事等の報告を行っている。又、現在取り組んでいるサービス内容や困難事例等を説明、参加メンバーから頂いた意見を参考に実践、報告を行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険制度の内容や、事業所が抱えている問題等の相談以外でも、市が推奨する取り組みや職員のスキルアップ研修等に参加し関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠については日中のみ開放（ただし、自分で自動ドア解除される方がいるので手動している）転倒転落の危険がある階段のみ常時施錠、エレベーターは用あるのみ開放。職員に対する身体拘束禁止の周知として全体ミーティング等で内部研修を行い、理解した上で利用者様のケアを行うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全体ミーティングでマニュアルに沿った虐待防止の内部研修を行っている。職員一人ひとりが意識してケアを行い、職員同士が相互に注意しあえる関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や計画作成担当者が社会福祉協議会の担当者と連携し対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書と重要事項説明書の説明を行い利用者様、御家族の不安や疑問に対しても納得して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の要望には、訴えがあった時にその都度対応している。御家族様からはリモート面会時や、電話連絡により要望を頂いている。運営推進会議を通じ外部へ発表すると共に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者には職員の提案や意見に耳を傾けるように努め、ミーティングでも意見を聴くようにしている。提案等は、職員全員で話し合い、出来る限り反映するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は仕事の役割を持っている。担当する利用者様のケアプラン原案作成等に、関わり意見や提案が反省される事で、意欲的に仕事に取り組む事が出来ている。代表者は自己評価と実績を考慮し、給与等で反映するようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者と管理者は、職員一人ひとりの経験や力量、向上心を把握しその職員にあった研修に参加できるように努めている。全体ミーティングでは、様々な福祉医療の勉強会を行い、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の施設や医療機関のスタッフと交流し、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に繋がるように努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接にて、本人や御家族様に聞き取り調査を行い、不安な事や困っている事等、要望を把握した上でサービス計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前契約時と契約時に御家族様の要望を聞き取り、不安を取り除くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様の現在の状態を把握した上で、要望や必要なサービスがどこまで行えているかを説明している。場合によっては他のサービスや医療機関の利用が必要になる事も説明し、理解して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様に対しては、人生の先輩として敬意を表した上で、馴染の関係になれるように接し、家族のような雰囲気の中で過ごして頂けるよう職員一人ひとりが意識して関わりをもつようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設は共同生活の場であり職員は家族の一員と言う事を念頭に、好きな活動、できる家事は一緒に行いできる事、できない事を見極め、利用者様が困った時等はさりげなくフォローする関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の多くが、島の住民で馴染の人や場所が多い。本人の希望により、御家族や職員が付き添い対応し、馴染の場所との関係が切れないよう配慮した支援行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が関わりを持てるように、レクリエーション活動等行っている。体操や工作レク等を通し、仲の良い利用者様同士が互いに支え合う場面も、見られるようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅に戻られた場合でも、担当のケアマネージャーと連携を取り、必要に応じて情報提供する等の協力をしている。退所が決まった場合でも、希望された場合には、別の施設や医療機関と一緒に探す協力をしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の利用者との関わり中から、思いや希望、困っている事を把握し支援行っている。意思を伝えるににくい利用者様でも、御家族からの情報や日々の過ごし方、表情を伺い、その方に必要で安心して過ごせるように支援行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接では、本人御家族からこれまでの生活歴や生活環境を伺い、担当ケアマネージャーや医療機関スタッフ等からも、在宅時のサービス利用状況や、診察状況等の情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	事前面接で得た情報を周知した上で、環境の変化には十分注意し観察行う。日中、夜間の状態記録し職員全員で、共有し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、御家族の要望や意見、その他医療機関等の関係者から得た情報を分析し、計画作成担当者と担当職員で話し合いを行い、サービス計画作成及び評価、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月24時間、タイムスケジュール形式で経過記録残している。特変時は、日勤日誌や夜勤日誌にも転記し、職員全員で情報の共有と状態の把握に努め、サービス計画作成時や、モニタリングを行う際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとり状況の変化に応じて、柔軟な対応が出来るように努めている。その際は本人、御家族様に相談しニーズや意見を伺うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	医療機関、ボランティア、馴染の商店等、その方が生活していく上で必要なもの全てを社会資源と捉え、継続して関わる等が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様の大半は、隣接した協力医を主治医としているが、希望により馴染の医療機関を継続されている方もおられる。主治医からの専門医受診の勧めには、御家族様と協力体制を取り通院介助行っている。医療機関には必要に応じ、情報提供を行う等、適切な医療が受けられるように日頃より連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化や疾病の悪化が見られた時には、看護職員に報告。必要であれば受診の手続きを取っている。看護職員不在時でも、電話連絡により状態の報告と相談及び指示が受ける事が出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医や看護師、相談員と連携を取り合い、現在の状態や入院期間等を確認している。退院できる見通しが立った時点で、帰所後も不安なく生活が送れるように、職員全員でケア方法の話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療施設同様の対応は、難しい事を契約時に説明している。その上で看取りを希望された場合には、主治医と相談の上、出来る限りの対応を行っている。その際は、主治医から御家族様に現在の状態と今後予測される変化、医療が行える限界等の説明をして頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に対処する為のマニュアルを作成し、職員全員に周知し全体ミーティングでも看護職員を中心に応急処置法や対処法の勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防計画に基づき、年2回避難訓練を行っている。又、協力機関や近隣の方にも災害発生時の連絡網を配布し、協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりを尊重し、人生の先輩として敬意を表し、プライドやプライバシーを損ねない声掛けと対応を心掛けている。声掛けや対応の仕方について職員同士が互いにアドバイスを行い、ミーティングでも定期的にふりかえりと反省行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の言葉による意思表示は勿論の事、意思表示が上手く表せない利用者様にも分かりやすい選択肢を用意する等で、自己決定を促しその人らしい生活が送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レク活動等の参加に対し、声掛け行いが無理強いはしないようにしている。利用者様一人ひとりの性格や生活習慣を尊重し、出来るだけ本人様のペースに合わせた支援と個別対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日着る衣服を職員が選ぶのではなく、利用者様本人に出来るだけ選んで頂くように声掛け行っている。毛染めやパーマを通っていた所に行きたいと希望された方には、美容院に行けるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な調理・下ごしらえや味見、盛り付けから食後の後片付けまで、利用者様の個々の能力に応じた事を手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>外注している食材でカロリー計算されているが、塩分や糖分、脂質には気をつけながらも味が損なわれないように心掛けている。一人ひとりの状態に合わせ、普通食、刻み、トロミ、粥等の工夫を行い、食事や水分摂取量は毎日管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、自力で難しい方は介助を行っている。口腔内の疾患がある方には、歯科医に往診での治療をして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表にて管理し、状態把握を行っている。訴えのない方でも、声掛けとトイレ誘導を行い、気持ち良く過ごして頂けるように支援している。介助の際でもできるだけ残存機能を活かして頂き、難しい部分は介助を行うようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>チェック表にて管理し、排泄状況の把握を行っている。出来るだけ自然排便を促す為、適度な運動とバランスの良い食事、水分量の確保を支援している。排便が見られない場合は、看護職員に報告、医師に相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週2回実施。又、1・2階共に午前浴を行っている。利用者様の体調・希望に応じて好みの時間の入浴も実施している。その方の好みに応じた湯温調整を実施し、冬至にはゆず湯を楽しんで頂き、入浴でも季節を感じて頂けるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	利用者様それぞれで休まれる時 間が異なり、訴えに合わせた就 寝介助を行っている。夜間は、 トイレ誘導やパット交換、希望 時の水分補給等を行い巡回と様 子観察にて安心して気持ちよく 休んで頂けるように、支援して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方されている薬の内容や用法効 能が把握できるように一覧して いる。症状の変化については、 経過記録に残し看護職員を通 じて医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	利用者様には、それぞれホーム での役割を持って頂き意欲の向 上に繋がるように支援している。 個別で行うレクリエーションや 趣味等の活動が楽しく続けら れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	天気の良い日には職員が付き添 い施設、畑まで散歩し日光浴や 花を見て楽しんで頂いている。 コロナウィルス流行しなければ 近所の海や施設周辺を散歩し 季節を感じて頂き気分転換と なっている。その他ドライブや 買い物支援で外出される事あり 、御家族の協力もあり外出・ 外泊される事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	トラブル防止の為、金銭管理は 原則御家族様にお願いしてい る。買い物や通院での支払い は施設が立て替えている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は施設の物を使用して頂いている。利用者様の中には携帯電話を使用されている方もおられる。届いた手紙は本人に渡している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアは温度・湿度計を見ながら利用者様が過ごしやすい室温・温度調整をし、健康管理に努めている。壁面には季節を感じて頂ける装飾や行事での写真等を飾り室内でも季節を感じて頂ける工夫をし楽しい雰囲気作りを努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアの一角にソファを設置しておりテレビ観賞される方や談話されたりフロアテーブルでは思い思いに塗り絵やパズル・手紙を書かれたりくつろぎ休息され、それぞれ過ごされている。利用者様は居室とフロアを自由に行き来され、仲の良い利用者同士が居室を訪れ過ごされている事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族には使い慣れた物や思い出のある物を持ち込んで頂くようお願いしている。出来るだけ住み慣れた場所に近い空間を作り、安心して過ごして頂けるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置しており利用者様が安心して過ごせる環境作りを行っている。自立を促す為、過剰な援助は行わず残存機能を活かして出来る事が継続していけるように支援している。		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム能美いこいの里

作成日 令和4年2月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践。	職員一人一人が身体拘束廃止についての知識と意見交換する場を設け介護方法を身につける。	身体拘束をしない介護について職員が現在どこまで理解しているか確認する。研修会を開催する。	12カ月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援。	重度化や看取りに関する内容を、職員間で共有できるように努め、尊厳に配慮し終末期ケアを行っていく。	外国スタッフや看取り経験のない職員もいる為、施設内研修実施。重度化や看取りを勉強を通して理解する。家族の意見を聞き意向を確認する。	12カ月
3	35	災害対策。	地域住民の方達に協力して頂ける関係作りを行っていく。	運営推進会議等で、近隣住民との交流も図れるように努める。	12カ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。